

歯科医が介護施設に呼びかけ

誤嚥性肺炎をゼロに!

<上>

サービスの質向上に向けた多職種協働は、これからの医療・介護のスタンダード。福岡市では、歯科医と介護施設が手を組み、口腔ケアの普及で誤嚥性肺炎をゼロにしようという取り組みが進んでいる。やれば必ず効果が出る、という口腔ケア。2回にわたりその内容を紹介しよう。

(編集部)



福岡歯科大学高齢者歯科助教

瀧内 博也

「誤嚥性肺炎が多い」くなります。全身には様々な病になります。家族もと、介護施設でよく耳に、感冒、悪寒、痛みが生 医療費の支払いの負担がします。介護施設で誤嚥し、長期間、苦しむ症状 生じ、税金を支払う私た性肺炎が多いのは、全国との闘いです。80歳以上 ちにとっても無縁の国で共通のことでしょう。福の肺炎ではその約9割が はありません。

誤嚥では入居者を誤嚥性 誤嚥性肺炎と言われてお さらには深刻なのが介護 肺炎から守りたいと思う り、入院時は寝たきり、 施設への影響です。介護 介護施設が訪問歯科と協 絶食の処置を取ります。 度の悪化は、介護職員の 力し、誤嚥性肺炎ゼロロ これらは食べる楽しみを 介護負担につながらま ロシエクト)をスタートさ 奪い、筋力や全身レベル ます。元気な入居者が長期 シエクト)をスタートさ せ、誤嚥性肺炎ゼロ、入 入院で別人のようになり 入り、死をより早めること 痛っているのは、非常に 院日数ゼロを目指し取り 組んでいます。また、飲み 悲しいことです。また、 込みの機能(嚥下機能) 入院中は介護サービス を提供していません。また、 再発入院を繰り返しま 提供していません。また、 特別養護老人ホーム(以

6施設でも収入ダウン 年800万円 入居者の肺炎は入院を 余儀なくされ、多くの場 合が死に至ります。高熱 ます。その入院医療費は 1日約5万円で、長期間 受け入れも制限され、長 期入院後の退所や死亡

は、さらなる施設収入の 減少ともなってしまうの です。 私たちはまず特養の入 院実態調査を行います。 福岡市内の特養6施設 の年間平均(入居定員 100名に換算)の総入

分かります。試算すると 肺炎1回で約37万円、年 間合計約800万円の施設 収入の減少です。一方 入院医療費は約2800 万円です。全国規模で考 えて、特養だけでも約 8000施設あることが、 肺炎により生じるコ ストは膨大です。

口腔ケア、結果は必ずついてくる

院日数は700〜1100日 でした。肺炎は入院は全 ての施設で群を抜いて多く が延べ21・7回の入院、 肺炎1回あたりの入院日 数は26・1日でした。 いかに肺炎が多いのかが

「むせる」は 正常な飲み込み(嚥 下)では、飲み込んだものは食道を通り胃へと運ばれます。しかし、上手に嚥下できず誤って気管に入ることを誤嚥と言います。誤嚥したものは肺へ運ばれ、肺炎を引き起こします。このように、誤嚥に由来する肺炎を誤嚥性肺炎といいます。嚥下機能が低下すると、食べ物だけでなく、お口の中の汚れである菌やフラーク、食渣(食べ物の残りカス)、入れ歯の汚れ、汚染された唾液、嘔吐物などを誤嚥し、誤嚥性肺炎になることもあります。 それでは、なぜ誤嚥の 消失が考えられます。

「むせる」は、通常の 場合、誤嚥リスクは高く、就寝時や安静時に防御反射が見られないまま、お口の汚れを誤嚥し誤嚥性肺炎を引き起こすことがあります。こ ころで誤嚥が起きます。食 事が介助や口腔ケア時に、 お口の奥に唾液が当たっ ても全く相手の反応が無くても安全な反応が無くても経験はありませんか。 これは、防御反射の消失 が考えられます。 また、一時期むせがあつたものの、その後見られなくなった経験はありますか。これは、機能 改善ではない、さらなる 効果認められています。 そのため、介護施設 では口腔ケアのニーズが

図1 福岡市内の特別養護老人ホーム6施設の年間平均入院日数

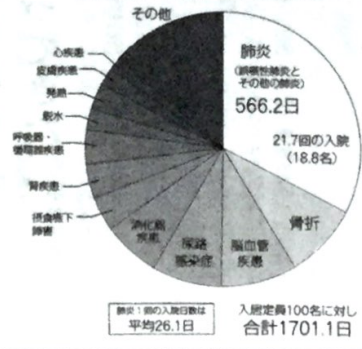


図1: 図の入院日数は平均26.1日 入居定員100名に対し合計1701.1日